学校企画実施提案書

1. 応募するプロジェクト名

「学校企画」

2. 企画テーマ名称

テーマ 「Fukusho Internet Community」から
「Fukusho Independent Corporation」の構築に向けて

副題 「校内仮想企業」を利用したインターネット・国際交流・多地点のテレビ会議
電子商取引・電子メールを利用した複合的学習情報空間の構築

3. 企画のねらい

背景

平成10年から平成12年まで、文部省の「光ファイバー網による学校ネットワーク活用方法の研究開発事業」の指定を受け1.5Mbps回線が引かれた。そこでの3年間の間に校内ではインターネットを教育にどう展開していくか、あるいはその効果的な使用方法など、「インターネット企画委員会」を中心に、各教科や各校務分掌で検討していった。生徒が授業でも放課後の活動に意欲的に取りこんでいったプロジェクトが「FIC project」である。「FIC project」とはFukusho Internet Communityの頭文字をとり「FIC project」とネーミングした。

FIC中心メンバーはコンピュータ部や商業研究部が中心としてインターネット活動の様々な企画と運営を実施していった。内容としては、福井商業高校で校内LANや、電子会議室、Webサーバーなどの運営を中心になって行ってきた。そしてFICや教職員、ボランティアの方々の努力もあって、急速に校内LANが整備された。それらを用いたサービスが拡充していくに従い、これらの安定的な運用の重要性が叫ばれるようになった。

それによって、今までの部活動の延長のようなFICの活動では、到底対応しきれなくなり、ネットワークの運用やその活用をもっと積極的に、組織的に行っていく必要性がでてきた。

そうした問題を解決する方策として、FICを「校内仮想企業」として組織し、民間企業のようなやり方で、様々なサービスを提供しようとする試みが始められていった。

インターネットをどのように授業に生かすか、迷われている方は多いと思う。FICはそれを解決するために、インターネットへの接続とあわせて、その利用法や様々なサービスをパッケージ化して提供することで、授業でのコンピュータの導入から利用まで一貫したサービスの提供体制を見据えている。そうした事業は現在、福井商業高校内を対象に行われている。しかし、校内ばかりにとらわれる必要はなく、FICが福井商業高校で得たノウハウは、他の場所でも役立たせていこうと考えている。将来はこの活動を校外にまで延ばし、今後はFICが地域のボランティアとして事業を展開していこうと考えている。

平成10年度からCECを中心とした「国際交流の実践」「アジア高校生国際交流プロジェクト」に積極的に参加してきた。多くの技術の共有ができ、また人的ネットワークが広がってきた。今年度はこの活動についてはFICの活動から国際経済科の英語授業としてカリキュラムの中に組み入れられた。また学校間交流の母体が数名の生徒から学年単位での年間の計画がたてられ、その活動においては1年生から3年生の全体で取り組んで行くようになった。

インターネット、そしてIT(情報技術)は、様々な未知の可能性を有している。しかし、旧来のやり方では、その可能性を十分に発見できない問題点を含んでいる。FICはそうした旧来からの手法や組織へ、生徒から出された一つの挑戦であるといえる。FICの新しい名前は「**Fukusho Independent Corporation**」。新生FICプロジェクトは確実に時を刻み出した。

企画の成果目標

- ・ 図書検索のデータベース化を図り、WEB上からの検索ができ、情報収集ができるようにする。
 図書のライブラリーだけでなく、WEB上からの「ビデオライブラリー」を構築することで多様化する生徒に対して授業の補足を行う。
- ・ 全校生徒にメールアドレスを配付し、意見交換の場を提供することで情報交換を活発にする。
- ・ グループウェアを利用して教員が授業や学校の問題点などを意見交換したり、ストーリーミングを

用いながら遠隔での授業を複数のクラスの同時展開していくことでアンケートを行いながら学科間における効果的な授業を考察していく。

- ・商業高校での「課題研究」あるいは「総合実践」などの時間を利用し、電子商取引を通じて経営分析を養う力を身につけ、自分のコンテンツをしっかりとプレゼンテーションしていく能力を育成する。
- ・電子メールでの意見交換やWEB上での情報収集がおおくなるのでインターネットの情報倫理・情報リテラシーを理解させていく
- ・アジア高校生インターネット国際交流プロジェクトやワールドユースミーティングでの共同製作内容を構築し、国際交流から小・中・高校との連携を中心に関係が密になるように実施していく。
- ・ネットデイを実施していくことで生徒および職員が、校内の情報通信機器に触れる機会を設け、また校内にネットワークを敷設することにより地域と学校との連携を図っていく。

4. 企画の概要

(1) 対象

全校生徒 1090名 (商業科 国際経済科 情報処理科 会計科 流通経済科)
国際経済科40名(1年~3年)計120名
情報処理科80名(3年 2クラス)
課題研究(インターネット)選択者
教職員・PTA
総合実践 課題研究 英語実務 情報管理 英語 英語

(2) 実施内容

【1】図書検索のデータベース化

準備：図書館の蔵書についてすべて必要項目を入力していく。

Web検索データベース・授業ライブラリーを構築していく。

時期：4月~9月 蔵書の必要項目入力

Web検索データベースの構築

ストリーミングサーバーの構築

10月~3月 図書館でデータベース検索システム運用開始

ストリーミングのサービス開始

【2】グループウェアとストリーミングの連携

準備：Web上でのグループウェアを作成 グループウェア用のサーバー構築

ストリーミング用のサーバー構築(予定)ソフトの設定

時期：4月~9月 Web上でのグループウェアを作成

グループウェア用のサーバー構築

ストリーミング用のサーバー構築(予定)ソフトの設定

10月~3月 グループウェアの運用について講習会を実施していく。

情報処理科目特にアルゴリズムの説明やビジネス基礎の英会話などの授業においては、デジタルレコードを行い、サーバーのハードに記憶させていく。ストリーミング機能をりようしながらいつでも授業を参照できる状態にしておく。

【3】電子商取引について

準備：西陵商業高校と川崎商業高校との間でインターネット上に共通のweb空間を置きそこにバーチャルモールを作成する事で商品の売買を実施していく。

各学校が扱う商品について店のホームページを作成し、そこでの取引の内容を会計ソフトで処理することで経営分析をおこなう。

規模：課題研究(3年)

時期：4月~7月

総合実践の内容を理解させる

メールの操作の習得

福井市場においてのホームページ作成

9月~12月

電子商取引実施

ネットミーティングによるリアルタイムセッション実施
 (相手の市場の生徒とのオンライン交流・意見交換)

1月

取引内容についての経営分析

各会社の実施状況をまとめそれについてプレゼンテーションしていく。

【4】次世代ITを活用した未来型教育研究における複数地点でのテレビ会議利用

～小・中・高校・大学の連携を目指して～

(国際経済科・生徒1.2.3年計120名)

準備・内容・時期：

(1) ワールドユースミーティング in 名古屋への取り組み(2001年7月28日)

詳細 <http://spc10.japanet.gr.jp/w2001/>

次世代ITを活用した未来型教育研究に参加している県内の(小・中・高・大学・
 特殊学校)にも啓蒙、国際交流を利用して学校間との連携を見据えた共同プロジェ
 クトを実施していく。また体的な教室の中での活用場面はどうするのか、徐々に変
 わりつつある英語教育はそのスピードを上げる必要は無いのか。といった具体的な
 海外での英語授業、プロジェクトの現場とともに接することによって、「変える」
 日本の教育をともに考えていきたい

シンガポール	ラディマス小学校
韓国	新亭女子商業高校 Shin-Jung Girls' Commercial High School ソウル女子商業高校(ビデオ会議参加) (Seoul Yo Sang)
台湾	高雄師範大学附属高校 高雄女子高校 (Kaohsiung Girls' Senior High School)
ジンバブエ	ムファコセ高校
日本	福井県立福井商業高校、名古屋市立緑高等学校、名古屋市立若宮商業 高校、名古屋市立西陵商業高校、三重県立川越高等学校、三重県いな べ総合学園高等学校、三重県立四日市西高等学校、三重県立みえ夢学 園高等学校、南山国際中学・高等学校、川崎市立商業高等学校、大阪 市立扇町総合高校、菰野町立菰野中学校、松阪市立中部中学校、宇都 宮大学教育学部、東京国際大学、中京大学、帝京科学大学

(4月～6月)

メールリスト上で

海外の高校への意識調査の後アンケート結果を相手国に送付

アンケートを基にした意見交換を電子メールで実施

お互いの国のイメージを意見交換していく。

意識の変化をアンケートのデータを利用しながらまとめその研究成果を
 発表していく。

次世代ITを活用した未来型教育研究における複数地点でのテレビ会議利用

県内の次世代ITを活用した未来型教育研究開発事業の指定校(小・中・高・大学・
 特殊学校)との意見交換を実施しながら国際交流の連携を福井県内の各学校にも啓
 蒙していく。

複数地点でのテレビ会議実施

(6月～7月上旬)

・福井商業高校・員弁高校・夢学園・台湾との多地点でのテレビ会議の実践を通
 し、WEB上で論議されてきたアンケートやテーマについてリアルタイムセッ
 ションを双方向でなく、複数地点で実施していく

・6月2週～3週にかけては福井商業高校・員弁高校・夢学園・台湾の4地点
 が交流できるよう企業との連携して進めていく。

7月上旬にかけては県内の参加高校と現在進めている国際交流の学校との連携は
 かりテーマに即した内容でリアルタイムセッションを小・中・高・大学の連携で
 行う。

- ・ワールドユースミーティング（本番）アンケートなどのプレゼンテーション
意見交換会・ワークショップによる情報交換

（9月～2月上旬）

9月～12月

- ・学校祭の企画として福井商業高校と台湾の高校生との意見交換会をネットミーティングやCu-seemeなどのテレビ会議システムを通して進めていく。
- ・それ以後も継続してテーマを決めての意見交換を定期的実施していき相互理解を深めていく。
- ・12月に予定されているアジア高校生国際交流に向けてリアルタイムセッションの内容やそこで情報交換したデータをもとにプレゼンテーションを作成し、成果をまとめていく。

10月～2月

- ・実際の3地点でのリアルタイムセッションでの問題点や新規発見した点などのマニュアル作成と利用事例のデータベース化を計る。また県内の次世代ITを活用した未来型教育研究に参加している学校と協力し、小・中・高・大学の世代間の連携と国際連携との融合がどういった効果をもたらしたのか、アンケートで調査し、分析していく。

【5】インターネット教育実践の研修

準備・内容・時期・規模

4月～3月まで学期に2回～3回程度計6～9回の教育実践研修会を実施していく。今年度はグループウェアを利用したデータの共有化・グループ内での掲示板の利用などを徹底していく。

全職員対象の講習会

5月 ネットワーク講習会・著作権 グループウェアの講習会

6月 ネット検索・メールリスト

7月 電子メール利用の仕方

9月 掲示板の利用の仕方

10月～12月ホームページ作成 図形・写真利用

音声・動画の利用 デジタルカメラの使い方 デジタルビデオの使い方

1月～2月 テレビ会議ソフトの利用と可能性を探る。

【6】ネットディを充実させて理想の校内LANを構築していく。

準備：校内LANの設計とケーブル・HUB・モジュール・サーバーなどの部材の価格を調査調査する。グループウェア用のサーバーを設定する。

ストリーミング用のサーバーを設定して授業ライブラリーの準備を実施していく

このネットディに関してはFIB(Fukui Internet trouble Busters)の協力を得て実施していく。

FIB：福井県のインターネットの健全な発展を目指すボランティアグループのこと

内容：学校内の校舎全体に校内LANを敷設していく。

参考 http://www2.fukusho-ch.ed.jp/project/e2000/m_place/ 校舎図

情報処理棟～2号館～1号館～管理棟

今年度は職員のいる小部屋だけでなく、27クラス教室を対象にLANおよび情報コンセントを設置していく。

時期：10月前半

規模：全校生徒、父兄、PTA対象

4月 校舎内下見（3回程度）

5月～7月必要な部祭調達・PTAの参加呼びかけ

9月 校舎内下見（2回程度）組織作り。グループ分け

校内LAN講習会などを実施していき職員および生徒にケーブル正端作業やサーバーの設定をおこなう。

10月 本番

この状況をcu-seemeで実況し、WEBにLive中継していく。